

令和6年度 学校評価（前期）結果報告

八幡浜市立江戸岡小学校

1 令和6年度前期自己評価結果の報告

(1) 学校の教育目標・児童像・学校生活について

全ての教職員が、教育目標の具現化を意識して教育活動を推進することができた。今後も、教育目標や目指す児童像を教職員で共通認識し、全ての教育活動を通して児童の健全育成に努める。

多くの児童が充実した学校生活を送っており、児童、保護者のアンケート結果とともに、昨年度よりも高い評価であった。しかし、一部に学校生活に満足できていない児童の様子が見られるため、個々の課題や悩みの解決に努める。

(2) 学習指導について

全国学力・学習状況調査等の結果を基に、児童の学習の成果や課題を分析し、児童の実態に応じた授業改善に努めた。また、少人数指導の充実やICT機器の効果的な活用を図ることで、児童一人一人に目を向けた指導にも努めた。しかし、「主体的・対話的で深い学び」に目を向けると、本校児童は自分の考えを適切にまとめる力に課題があり、自分の考えを進んで表現することを苦手としている傾向がある。そこで、今後もペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、一人一人に活躍の場がある主体的で対話的な授業づくりを推進する。また、つまずきのある児童への支援や個別指導を充実させるとともに、教職員が一人一人の児童に関わる時間を十分に確保するための授業改善に努める。

家庭学習では、児童や教職員の評価での肯定率は高いが、児童によって個人差がある。保護者の評価からも十分でないと感じている様子が見られる。家庭との連絡や生活学習がんばりカードの活用で児童の様子を把握し、課題のある児童への声掛けや支援に努める。

(3) 生徒指導・人権・同和教育について

職員朝礼、職員会議、校内研修等で児童理解や情報交換の時間を確保し、共通理解を図っての指導を実践することができた。今年度認知したいじめの事例はなく、多くの児童が元気に学校生活を送っている。今後も、全教職員で児童を守り育てる意識を持ち、一体となった指導を継続する。

児童の挨拶や言葉遣いについては、教職員や保護者の評価が低い。今年度は、重点目標の中でも、特に挨拶の励行に取り組んでいる。各家庭にも呼びかけて、根気強く指導を継続していく。場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いについても、地域や家庭と連携して適切に指導していく。

2 今後の重点項目対策

(1) 目標に向かって主体的に行動する児童を育てる

- 学ぶ楽しさを実感できる、分かる授業作りに努める。
- 自己肯定感を高めるとともに、互いに認め合える集団をつくる。
- 集団への所属意識を高め、互いに支え合える学校・学級経営に努める。

(2) 規則正しい生活習慣を確立する

- 自分から先に気持ちのよい挨拶ができる児童を育成する。
- その場に合った言葉遣い、相手を思いやる言葉遣いができる児童を育成する。
- ゲームやネット等、ICT機器の活用状況を改善する。
- 個々の実情を把握し、適切な家庭学習ができるよう工夫する。